令和３年度自己評価計画書（最終評価）

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み（改善策等）
1 不断の授業改善により、生徒の主体的な学びを高め、３年間・５年間を見通した学力・技術の向上を図るとともに、国家試験全員合格を目指す。	① ＩＣＴ機器を活用した協働学習を取り入れることにより、生徒の主体的な思考を促す。	「先生は、協力して学ぶ機会を設けている」 と評価した生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７５％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　である。	先生は協働学習の機会を設けていると評価した生徒の割合が １年生　７４．１％ ２年生　７８．０％ ３年生　８３．９％ 専攻科　８７．９％ 全　校　８０．３％ 評価　Ａ	全校の肯定評価は中間評価と比較し２％増加した。どの学年も中間評価と比較し肯定評価が増加した。感染症対策を講じながら、ペア・グループ活動等を実施した。また、クロームブックを活用し、思考した内容を表現する場面を設けた。今後、課題解決型の学習や生徒間の学び合いを積極的に取り入れる。ＧＩＧＡ研修での学びを活かし、ＩＣＴ機器の利活用を一層推進する。
	② 主体的な思考を促す発問や学習課題を提示することで自ら学ぶ意欲を高める。	「分からないことは質問したり、調べたりして理解するようにしている」 と自己評価した生徒の割合が Ａ　８５％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７５％以上 Ｄ　７５％未満　である。	分からないことを質問したり調べたりしていると自己評価した生徒の割合が １年生　７４．３％ ２年生　７０．３％ ３年生　８９．２％ 専攻科　８８．０％ 全　校　８０．２％ 評価　Ｂ	全校の肯定評価は中間評価と比較し 4.5%増加した。特に３年生と専攻科は 12%増加した。知識・技術を活用し思考を深める場面を意図的に設定した。学習に対する目的意識が高まり、主体的に学ぶ態度が身に付いてきた。一方、２年生は中間評価と比較し肯定評価が８％減少した。生徒の興味関心を喚起する発問や課題を提示し、生徒の主体的な活動を促す授業を実践する。また、生徒の実態に応じた家庭学習課題の内容を検討する。
	③ 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	偏差値４０未満の生徒が Ａ　０人 Ｂ　１～２人 Ｃ　３～４人 Ｄ　５人以上　　である。	１年生　　評価　Ｂ	＜１年生＞ ２月の五年一貫校全国模試の結果、学校順位３位／２８校中、学校偏差値 59.5、①基礎医学 56.4、②基礎看護 61.0 であった。しかし、①基礎医学において偏差値 38.6 の生徒が１名いたことから今後、基礎力を養うため個別に応じた学習支援を強化していく。

				２年生　　評価　A ３年生　　評価　A	＜２年生＞ ２月の五年一貫校全国模試の結果、学校順位２位／３４校中、学校偏差値 62.8、①基礎医学 61.9、②基礎看護 61.6 で偏差値 40 を下回る生徒はいなかった。さらに基礎力強化に向けて課題学習に取り組んでいる。 ＜３年生＞ １月の全国模試の結果、5 位／128 校中、偏差値 60.5、全国模試の科目別①疾病の成り立ちと回復の過程では、44 位／102 校中、偏差値 53.4 であった。どの模試においても偏差値 40 を下回る生徒は 0 人であった。今後も個別に学習支援を強化していく。
			＜専攻科１年生＞ 看護師国家試験演習の個々の得点が必修問題８０％未満、または、一般・状況設定問題６０％未満の生徒が A　０人 B　１～２人 C　３～４人 D　５人以上　である。 ＜専攻科２年生＞ 偏差値 40 未満の生徒が A　０人 B　１人 C　２人 D　３人以上　である。	＜専攻科１年生＞ 評価 必修問題　評価　A 一般・状況設定問題 評価　C ＜専攻科２年生＞ 評価　A	＜専攻科１年生＞ １月に行った全国模試（基礎学力）の結果は、学校順位２位／77 校中、必修問題の偏差値 69.1、80％未満は 0 人、一般・状況設定問題の偏差値 72.0、60％未満は 4 人であった。得点率による評価ではＣとなるものの、偏差値は非常に高く、日頃の学習態度や課題の取り組みは大変良好である。今回の結果から問題の難易度により得点率が変動するため達成度判断基準を偏差値に変更することを検討したい。今後も計画的な学習計画と個別に応じた学習支援を強化していく。 ＜専攻科２年生＞ １月の全国模試の結果は、学校順位 27 位／770 校中、偏差値 57.4 であった。偏差値 40 未満の生徒は 0 人で判定は A である。しかし、3 人の生徒が偏差値 40～45 であった。２月は感染予防のため自宅学習となったがリモート支援を継続した。第 111 回看護師国家試験には全員合格した。今後も計画的な学習計画と個別に応じた学習支援を強化していく。

	④	＜1年生＞ 教科小テスト、漢字・英単テスト等の学習方法を指導することで、家庭学習を習慣化する。 ＜2年生＞ 毎日の課題をチェックすることで、家庭学習を習慣化する。 ＜3年生＞ 分野ごとの小テストや個別指導を実施し、専門知識の確実な定着を図る。	＜１年生＞ 小テスト等の正答率６５％以上の生徒の割合が Ａ　１００％ Ｂ　９０％以上 Ｃ　８０％以上 Ｄ　８０％未満　である。 ＜２年生＞ 毎日の課題を提出する生徒の割合が Ａ　１００％ Ｂ　９５％以上 Ｃ　９０％以上 Ｄ　９０％未満　である。 ＜３年生＞ 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率６５％以上の生徒の割合が Ａ　１００％ Ｂ　９５％以上 Ｃ　９０％以上 Ｄ　９０％未満　である。	＜１年生＞ 小テスト等の正答率 ６５％以上の生徒の割合が ４３．０％ 評価　Ｄ ＜２年生＞ 毎日の課題を提出する生徒の割合が ９４．５％ 評価　Ｃ ＜３年生＞ 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率６５％以上の生徒の割合が １００％ 評価　Ａ	＜１年生＞ ２学期より担任を中心として関係教員が関わりながら学習を進めることにより、中間評価の 49.9%が今回は 57.1%と 7.2 ポイント上昇した。ただ、３学期には 21.9%に下がり、年間を通して中々家庭学習が習慣化していないのが現状である。２年生から介護実習が本格化してくるため、家庭学習が必須となる。今後も根気強く関わり、８月までに家庭学習を習慣化できるような取組を実施していく。 ＜２年生＞ 中間評価 94.7%、１２月評価 93.9%、３学期評価 94.7%と年間トータル 94.5%であった。毎日の課題をきちんと提出している生徒が増えている中、提出率 60%台の生徒が数名おり、家庭学習の必要性について理解し行動できるまで説明を繰り返していく。この取組については、教員の諦めずにアプローチする姿勢が必要である。 ＜３年生＞ １２月・１月に実施した国家試験演習では２６名全員が得点率６５％以上であった。今年度は、１２月からゼミ形式の少人数補習を始めており、個々の苦手克服に向けた学習が効果を上げたと思われる。その結果、全員合格を果たした。今後も演習後の分析に基づき、個々の状態に合った対策を立てて学習を進めていくことにより、全員合格を継続していく。

学校関係者評価委員会の評価	専２、高３で支援の結果が出ている。先生方の生徒を高めるための努力が推察できる。国家試験全員合格を祈る。 家庭学習が出来ない生徒の中にヤングケアラーがいないか心配。
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策	生徒一人一人の状況を把握し、今後も適切な学習支援を実施していく。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み（改善策等）
2 本校の学びを通して、看護師・介護福祉士に求められる健康な心身とコミュニケーション力の育成を図る。	① 「田鶴浜高校いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめのない学校作りを推進する。	生徒アンケートで「互いの人格を尊重し、いじめを絶対に許さないという意識」について、「大いに高まった」と「高まった」の回答が Ａ ９５％以上 Ｂ ８５％以上 Ｃ ７５％以上 Ｄ ７５％未満　　とする。	１月の生徒アンケートで「大いに高まった」「高まった」と回答した人の割合は　９５．１％ 評価　Ａ 「大いに高まった」 ５０．７％ 「高まった」 ４４．４％	「意識が高まったのはどのような時か」の回答に、授業（43.7%）、講演会（40%）、学年集会（20.7%）、実習（12.6%）が挙げられた。今年度は講演会が予定通り実施されておりその効果もあると考える。「意識が高まらなかった」理由には「身近にいじめがない」「意識は元から高い」等の回答があり、「いじめのない環境」も確認できる。「ネットに悪口の書き込みをされたことがある」の回答で「ある」が 1.9%あった。今後もネット上の見えないいじめに注視し、いじめの撲滅を図る。
	② 立ち止まって丁寧に挨拶をすることができるよう継続指導する。	保護者アンケートで「立ち止まって挨拶している」の回答が Ａ ９０％以上 Ｂ ８０％以上 Ｃ ７０％以上 Ｄ ７０％未満　　とする。	１２月保護者アンケートで「立ち止まって挨拶している」と回答した人の割合は　７４．３％ 評価　Ｃ 「わからない」　１９．８％ 「できていない」　５．９％	「わからない」の回答が２０％近くある。コロナ禍の自粛措置により学校に足を運ぶことが少なくなり、本校生徒の様子が見えなかったことによる回答と思われる。全体的に挨拶はできていると思われるが、「できていない」の回答が５．９％もあることから、していない生徒がいるのも事実である。今後も挨拶の意義を周知させ、自然と立ち止まった挨拶ができるよう指導していく。
	③ 部活動の活性化のため、実習などで参加人数が減少する時期に合同部活動を実施する。	合同部活動後のアンケート結果で満足と答えた生徒が Ａ　８０％以上 Ｂ　６０％以上 Ｃ　５０％以上 Ｄ　５０％未満　である。	アンケート結果で満足と答えた生徒が 【第１回】6／29 実施（ドッジボール） 87%　評価　Ａ 【第２回】12／9 実施（バスケットボール） 86%　評価　Ａ	他の部や他学年と交流する機会の増加や参加生徒の運動意欲向上につながった。また、合同部活動をミニ行事として位置づけ、生徒会執行部中心に企画・運営をしたことで、大きな行事（鶴友祭・球技大会）に向けた企画・運営の練習ができた。集計結果より生徒の満足度が高いことから、今後も継続して実施していきたい。

	④	心身が健全で粘り強い生徒の育成を目指し授業、部活動、学校行事等を通し３分間走、全力走を行う。	反復横跳びと 20mシャトルランについて 秋の記録が春より向上している生徒が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満　　である。	記録の向上が見られた生徒は 【反復横跳び】 183 名/213 名 86% 評価　Ａ 【20mシャトルラン】 123 名/211 名 58% 評価　Ｄ であった。	反復横跳びと比べて、20mシャトルランは目標である全体80%を達成できなかったため、普段のウォーミングアップへの取り組み方を見直させたり、持久力を高めるような運動を多く取り入れたりするなどの支援や指導を継続して行っていく。また、健康の保持増進や体力の向上には、継続した運動習慣が必要であると説明し、実習期間中や考査期間中でも各自で運動に取り組むように意識付けをする。来年度も継続して取り組んでいきたい。

学校関係者評価委員会の評価	体力作りのＡ判定は良いこと。挨拶は信頼関係を築く入口、爽やかな挨拶（笑顔・声）が出来るよう、評価が上がるよう、努めて欲しい。コロナ禍でも部活、鶴友祭など活発に実施されている。目に見えないいじめ防止に今後も取り組みを。
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策	挨拶など基本的生活の指導を通し、コロナ禍においてもより健全な人間性を育み、医療福祉を担う人材育成に努める。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み（改善策等）
3 本校の特色ある教育活動や、地域の医療･福祉を支える人材の必要性等の広報に努め、志願者の増加を図る。	① 情報誌、ホームページ、動画などを活用し、本校の教育活動と生徒の様子やその成果を可視化する。	学校説明会での説明で「本校の教育活動が理解できた」の回答が Ａ　９０％以上 Ｂ　８５％以上 Ｃ　８０％以上 Ｄ　８０％未満　　である。	学校説明会後実施したアンケート結果 肯定評価　１００％ 評価　Ａ	学校説明会（９月・１１月開催）参加者 243 名から回答を得た。その結果、大変理解できた 84.8%、理解できた 15.2%だった。本校の施設見学、高校生活の様子を紹介した動画が好評だった。看護・福祉の授業見学や体験をしたいとの意見があった。今年度体験入学を中止した影響も考えられる。本校の教育活動を具体的にイメージできる動画の作成やホームページ・情報誌の充実を図り、看護・福祉への関心を喚起する。

	②	産業教育フェア、体験入学、学校説明会、出前授業、生徒の母校訪問などを通して、衛生看護科の魅力を発信する。	体験者アンケートで「５年一貫教育による看護師養成教育の理解が深まった」の回答が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　　である。	学校説明会後実施したアンケート結果 肯定評価　１００％ 評価　Ａ	学校説明会（11 月）の参加者 111 名のアンケート結果、「大変理解が深まった」96 名（96%）、「だいたい理解が深まった」15 人（13.5%）であった。 感染状況により産業教育フェア等での看護の魅力の発信はできなかったことから、衛生看護科のホームページ等の更新を通して情報発信を試みた。今後も、５年一貫教育の理解が深まるよう看護の魅力発信に向け取り組んでいきたい。
	③	情報誌やホームページによる本校の情報発信に加え、ICT を活用した健康福祉科の教育活動や魅力の発信をする。	体験者アンケートで、健康福祉科に対する理解が深まったという人数の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８５％以上 Ｃ　８０％以上 Ｄ　８０％未満　である。	体験者アンケートで、健康福祉科に対する理解が深まったという人数の割合が １００％ 評価　Ａ	小学校の出前・交流授業を４校１９４名に実施した。そのうちの１校では、出前授業・リモート交流授業・本校での交流授業の３回実施し、福祉理解や本校が行っている活動理解が深まったと思われる。初のリモート交流会では、小学生と高校生がグループ毎に交流したが、小学生から直接の交流がしたいとの要望から本校での交流会が実現した。今回のことから、実際に本校の施設設備を観てもらい、高校生と一緒に活動することによる理解度の違いを痛感した。今後は、ICT の活用によるリアル体験に近いものが提供できるようにしたい。

学校関係者評価委員会の評価	本校は地域社会から求められる人材育成の場、情報発信は重要、動画配信など見える化を。ホームページはわかりやすい。 毎年多くの中学生が受験していることから目標達成しているのではないか。衛生看護科のクラス増設に期待したい。
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策	学校公開が出来ない分、ホームページで学校の様子、生徒の活躍を載せるようにしている。より本校の教育活動が見えるよう、見える化を図り情報発信していく。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み（改善策等）
4 教職員の業務改善の意識を高め、多忙化の解消に努める。	① 時間外勤務を減少させるため、業務分担の適正化を図る。	具体の取組を積極的に進め、一月あたりの時間外勤務時間が４５時間未満の教員の割合が、 A　７５％以上 B　６５％以上 C　５５％以上 D　５５％未満　である。	一月あたりの時間外勤務時間が４５時間未満の教員の割合が ６８．０％ 評価　B	昨年度は４月、５月の臨時休業や、各種大会や行事等の中止により、割合が７０．６％であったが、今年度はほぼ平常時の状況となったため数値は若干減少した。今後７５％以上の達成のため、さらに働き方改革の意識の高揚に努めていく。

学校関係者評価委員会の評価	勤務時間内での対面支援は創意工夫がなされている。無理がないか心配。教職員の業務はなかなか減らすことは出来ないと思うが、将来教員を目指す学生が増えるためにも業務改善、多忙化解消に努めていかなければならない。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	引き続き創意工夫をしていく。